

CONTENTS

地域会だより 1

連載【隔月 全6回】「環境建築」その先へ
第3回 -デジタル技術で行動変容(Behavior Change)を
ナッジ(Nudge)する- 2
川島 範久

職能・資格制度委員会 活動報告
会員集会「資格制度のこれから」 4
杉本 憲治

静岡発 建築ウォッチング
五感を刺激する名建築 5
村松 篤

自作自演 259
エスコンボールパーク 6
弓場 千也

夏、郡上鮎と長良川に戯れる 6
東谷 泰成

2024年度
東海支部役員選挙の告示
東海支部愛知地域会 会長・副会長及び監査選挙の告示 7

保存情報 第261回
登録有形文化財：尾関作十郎陶房 主屋 8
川口 亜稀子

編集後記 8
恒川 和久・若林 亮

JIA建築家大会2023東海in常滑：開催記念特集 05
大会エクスカージョン 9

地域会だより 今後の予定

- JIA東海支部
 - ・10/13 第4回支部役員会
 - ・10/21 第39回JIA東海支部設計競技1次審査
- JIA静岡地域会
 - ・10/12 静岡地域会役員会の開催 (WEB同時開催)
- JIA愛知地域会
 - ・10/20 賛助会企業PR会
 - ・10/20 第5回役員会
- JIA岐阜地域会
 - ・10/17 第6回役員会 18:30~20:30
- JIA三重地域会
 - ・10/6 第5回役員会 対面・オンライン併用
第4回例会、会員研修会②
「三重建築散歩」出版への道のり 講師：萩原義雄 氏

Bulletin Board

速報

第10回 JIA東海住宅賞2023 一次審査通過作品決定

2023年9月3日、大同大学にて、第10回JIA東海住宅賞2023の一次審査が行われ、以下の6作品が二次審査(現地視察)に進むことになりました。
審査員：原田真宏、坂牛卓、手嶋保

- 「小径の住まい」田中 郁恵 / 一級建築士事務所 田中郁恵設計室
- 「衝立の家」浅井裕雄+吉田澄代 / 裕建築計画
- 「下青島の家」水野 芳康 / 株式会社 水野建築事務所
- 「SLBH11」河合 啓吾 / 株式会社 TAB
- 「剛な天井」水谷 晃啓 / 豊橋技術科学大学 M2A
- 「芳野の住宅」熊澤 暢子+木村 俊明 / KKuma

表紙 常滑の景色……⑦「招き猫」

常滑は、招き猫の生産量が日本一です。表紙の写真はあふれる物の中に猫がいます。ここは、旧青木製陶所にある、この猫の居場所。相方の青木さんは不在中、帰りを待っていたのですが、路地に消えていきました。名前は聞いていません。あふれる物は、商いと時間の蓄積の証拠。招き猫のおかげでしょう。



浅井 裕雄 (JIA愛知)
裕建築計画

デジタル技術で行動変容 (Behavior Change) を

BECCカンファレンスと行動変容

環境配慮・省エネルギーは、その重要性を頭では理解できても、なかなか自主的に行動に移しづらいものである。この事実を認めた上で、技術の普及を促すことが重要であり、前回紹介した環境政策は、そのための方策のひとつと言えるだろう。しかし、ハードな技術の普及による効果にも限度がある。そのハードな技術を使用する人間の行動が変わらなければその本来の効果は得られない。そこで、人間行動の変容を促すソフトな技術についての議論が重要になってくる。そのような議論がカリフォルニアでは盛んに行われていることを、2012年11月にサクラメントで開催された「Behavior, Energy and Climate Change (気候変動・省エネルギー行動会議、以下BECC)」というカンファレンスに参加して知った。BECCは2008年に始まったもので、社会学者、実務家、公益事業者、学者、政府、企業、非営利団体が一堂に会し、エネルギーと炭素削減のための行動変容を促すためのベストプラクティスと研究を共有し、普及させるために開催されてきた(図1)。その後、この研究分野の重要性が日本においても認識され、2014年からBECC JAPANというカンファレンスが日本でも開催されてきている。

例えば、近年はLED電球の普及によ



図1: BECCカンファレンスのホームページ
(<https://beccconference.org/>)

り、人工照明のエネルギー効率は非常に高まってきているが、それでも使っていない場所でつけ続けてしまっている意味がない。それに対して人感センサー等を導入するという方策もあるが、全ての場所にそのようなセンサーを導入するにはコストも時間もかかる。その前に、ほとんどのユーザーが「使っていない場所の照明を消す」という省エネ行動を毎回自主的にしてくれれば、そもそもセンサーなども不要なのであるが、そうなるにはどうすればいいだろうか。こうした、環境配慮・省エネルギーに繋がる人間行動を促進しようと考えられるアイデアと、その実践・評価についての情報交換・議論が、建築設計者・設備エンジニアや工学系の研究者だけでなく、行動研究に身近な社会科学分野の専門家も交え、分野横断的に議論が展開されているのがBECCである。

人の行動を“Nudge”する

さて、BECCのトピックと関連するものとして、HEMS(ヘムス)やBEMS(ベムス)といったものがある。Home / Building Energy Management Systemの略で、センサーによって建物内の環境やエネルギー・水の消費量(または生産量)をセンシング・モニタリングし、ディスプレイ等に表示し、設備機器を適切に制御することで、生活を快適に保ちながらエネルギーや水の消費量を減らすシステムである。ここで重要なのは、「データを見る化する」こと自体にも消費量を減らす効用があるという点だ。毎月送られてくる光熱費の領収書にギョッと、節電しようと思った経験があるひとは少なくないだろう。日々の生活で自分がどれだけのエネルギーを消費しているかを知ることが、行動変容の第一歩である。

さて、自分のエネルギー消費量を知ることに加えて、もし自分たちと似たライフスタイルの家族と比べて、ある用途の消費量が極端に多い、などの情報が送られてきたらどうだろう。きっと省エネ行動を実行するモチベーションがさらに上がるはずだ。Home Energy Reportは、そういった考えに基づいたサービスのひとつであり、省エネ行動を促す新しいアイデアとして期待されている。このように、ひじでそっと突くように人の行動を良い方向に促すことを「ナッジ(Nudge)」と呼び、行動経済学分野で2000年代より注目されるようになった。近年は建築の省エネルギー分野でも注目されるようになり、その導入効果の検証も行われてきている(文献1)。

ところで、私の目の前にはパソコンのディスプレイがあり、脇にはスマホが置いてある。しかし、かといって、私は今、ディスプレイとスマホからのみ情報を得ているのではない。私をとりまく「環境」全てから情報を受けているのだ。そして、それにより行動を変えている。ふと窓の外を見ると、バルコニーで植木鉢の植物が気持ちよさそうに風に揺られている。それを見た私は、窓を開けバルコニーに出て風を感じる、というように。つまり、よくよく考えてみれば、建造環境そのものが情報を伝えるメディアなのである。建造環境というメディアにより人に情報を伝達し、人が自ら思考を変え、行動変容するような建築。そのような建築を、ICT技術によるレイヤーを建造環境に重ねることで実現しようと試みたプロジェクトを最後に紹介したい。

“Nudge”の実践:a seed hair salon

東京・荻窪のヘアサロンのデザインプロジェクトである。既存のスペースは、街

ナッジ(Nudge)する



図2:a seed hair salon(空間デザイン・照明システム開発:川島範久+丸山亮介, 2013年)
Photo by Yohei Ogata

に面する間口高さは2.2mと低いが、中に入ると天井高さが3.2mに広がる点が特徴的な空間だった。そこで、低い間口頂部から高い内部天井頂部までを繋ぐように、白く半透明な軽い布で天井を覆うことで、奥に行くほど天井が高くなるダイナミックな空間とした(図2)。

このプロジェクトの予算は限られており、十分な外皮の性能を確保したり、高性能な空調機を導入したりすることは難しかった。そのため、温熱環境のムラが少なからず発生してしまうこととなった。このような温度ムラは通常であればクレームの対象にもなり得るネガティブなものだが、それをポジティブなものに変換できないかと考えた。

そこでまず、カットスペースに温度センサーを一定間隔で配置し、空間の温度をセンシングできるようにした。そして、天井内部にグリッド上に配置された照明を、色相を変えることのできるスマー

トランプとし、それぞれの照明の色を、その直下の温度に従って、高温であるほど赤く、低温であるほど青く変化させるプログラムをインストールした(図3)。空間の温度ムラは本来目には見えないものであるが、これにより空間の温度分布を目で見て把握できるものとなる。ヘアサロンの予約は1時間毎なので、1時間ごとの来客のタイミングに合わせて3分間程度その温度表示モードとなるように設定した。美容師は空間の温度分布を把握し、暑がりのお客様を暖かい=赤くなっているエリアの席に座ってもらうようにし、暑がりのお客様を涼しい=青くなっているエリアの席に座ってもらうように誘導する。あるいは、熱だまりがあることに気づいて、窓を開けたり、カーテンをしめたり、空調運転を変更したりして、自ら環境調整をし、それを解消しようとする。主体的な行動によって獲得する快適性は、自動制御による受動的に得る快適性

と比べて、満足度が高いとも言われている。なにより、このような空間の変化は、美容師とお客様の会話の種にもなるし、カラフルでなんだか楽しい。デジタル技術を用いて、空間の環境情報をセンシングし、その情報をその空間にオーバーレイする。それにより、人はその空間の環境を詳細に把握し、その環境を活かすよう行動を起こす。行動変容(Behavior Change)をナッジ(Nudge)する建築。そのような建築の新しい役割の追求がデジタル技術によって可能になってきているのである。

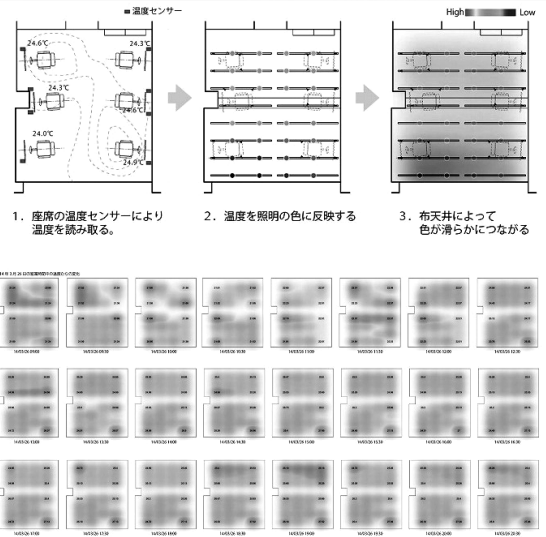


図3:照明システム・ダイアグラム(上)と温度ムラ変化の記録(下)

文献1

向井 登志広 他:スマートメータ版ホーム エナジーレポートの実証研究:郵便停止後の効果持続性や行動変容実態の検証, BECC JAPAN 2021(第8回気候変動・省エネルギー行動会議), 2021年

川島 範久 KAWASHIMA Norihisa

建築家。川島範久建築設計事務所代表取締役。明治大学理工学部建築学科准教授。1982年生まれ。2005年東京大学卒業。2007年東京大学大学院修士課程修了後、日建設計勤務(-2014年)。2012年、UCパークレー客員研究員。2016年東京大学大学院博士課程修了、博士(工学)取得。2017年川島範久建築設計事務所設立。

明治大学 准教授
川島範久建築設計事務所 代表取締役
建築家 川島 範久



会員集会「資格制度のこれから」

- 会場：ラグナスイート名古屋+zoomオンライン配信
- 開催日：2023年 8月10日



会場風景

1. 会員集会の意図と背景

職能・資格制度委員会では、建築家資格制度の意義、知名度向上、資格の効用などを議論し、会員へのセミナーや座談会を企画してきました。

今回は、「資格制度のこれから」について佐藤尚巳会長より直接、考え方をJIA会員の方へ説明を行う機会を設けました。



佐藤尚巳 会長 講演

資格制度のわかりずらさと有効性を改善

- ①新資格制度（第三者機関による認定資格）
 - ・豊富な経験、継続的研鑽、職業倫理を担保
 - ・統括的な設計職能者として取得推奨⇒コンペ、プロポの要件化
⇒国内統一基準として国家資格を目指す
APEC ARCHITECTと同格？
- ②JIA正会員（メンバーシップ）
 - ・一級建築士、専門性、公益性、芸術性、文化性を担保
 - ・建築家憲章、倫理規定、行動規範の遵守
 - ・①と②を備えた職能者として「JIA建築家」を名乗る
⇒UIA基準、対外的な相互認証基準

資格制度の方向性

2. 会員集会の概要

頼りになる建築家のブランド・存在価値の向上

佐藤尚巳会長より、建築家のイメージ改善、資格制度のわかりずらさと有効性を改善、明快な制度への移行が望ましいと説明を行う。JIA会員数や登録建築家が減少傾向にあるのが現状である。2つの類似した制度である登録建築家と統括設計専攻建築士が社会的に信頼性を勝ち得ていないのも課題である。このような背景から2つの大きな意見のかたまりとして

- ①新たな社会制度として、JIA正会員以外も含めたオープンな資格者像を目指す。
- ②「建築家」= JIA正会員として定義して、社会にアピールする。
このような方向性を提案する。

新しい制度の制定に向けての課題と提言

南知之本部職能・資格制度委員長より、制定に向けて論点を整理して説明を行う。二制度を包含・統合する新しい認証制度の意義・目的を明確にする必要があり普及に向けた協力体制をつくる必要がある。協議



南知之 委員長 講演

が長期化あるいは不調の場合、建築家資格制度は運用継続としたい。新制度の志向にあたり、会員全体の納得が不可欠である。

登録建築家とコンペの関連について

JIA東海支部の吉元学氏より、西尾市生涯学習センター（仮称）設計者選定設計競技において、実績はなくても登録建築家または統括設計専攻建築士であれば参加することができ、2022年度は登録建築家の新規登録者が増加したことを説明する。このような事例の積み重ねを行政に伝えていくことが重要である。また、今あるシステムを活かして未来をつくる案として、一級建築士としての足りない面を登録建築家が補うシステム（自律性、文化からの視点）日本の



吉元学氏 講演

現状に合わせた二本立てのシステム構築もあるのではと提案を行う。

3. 今後の課題

説明後の意見交換では、過去の経緯から二合意の難しさ、国家資格としての先行き、専業と兼業（利益相反）、CPD義務などが課題となった。昨今の発注方式の多様化、設計業務の複雑化など社会が変化してきており、建築家に求められる資質、そして資格制度のあり方を考えていきたい。

杉本 憲治 (JIA愛知)
梓設計



五感を刺激する名建築

●開催日:2023年 8月18日



参加者の集合写真(ハケ岳高原音楽堂にて)



館長の話に聞き入る参加者(ハケ岳美術館にて)



女神の森・セントラルガーデン カフェ



木の温もりに包まれたハケ岳高原音楽堂ホール



小淵沢駅舎

台風一過の8月18日、静岡地域会主催の建築ウォッチングが4年ぶりに催行された。今回は避暑地に建つ名建築を巡る企画とあって、会員・非会員合わせて28名の参加者が集まり、一路ハケ岳方面へと静岡駅を出発した。

最初に訪れたのは、標高1350mの長野県原村に建つハケ岳美術館。村野藤吾氏設計による建築は、開館から43年が経過しているものの少しも色褪せることなく、30年前に来訪した時よりもさらに森に溶け込んでいる姿を見て素直に感動した。

施設の案内をお願いした館長の小泉悦夫氏は「デザイン基調はロック(岩)だよ。それはハケ岳山麓の風化の跡を表現したんだ」と、村野氏が語っていたエピソードを交えながら、美術館に対する熱い想いを力強く語っていた言葉が印象的だった。

原村を出て、次に向かったのは小淵沢にある女神の森・セントラルガーデン。竹中工務店+永山裕子氏の設計により2016年に竣工、ホールやカフェが併設された建築である。硝子越しに溢れる緑の中で味わうオーガニックランチ、木々の葉が回廊の天井に揺らめきながら映りこむ仕掛け等、随

所に自然と建築の融合を図ろうとする意気込みが伝わってきた。

次の目的地は、今回の目玉でもあるハケ岳高原音楽堂。言わずと知れた吉村順三氏設計による1988年竣工の木の音楽堂(実際はRCと木造の混構造)である。これまで幾度となく足を運んできた建築だが、今回はJIA静岡の江川氏がこれまで体感したことのない素敵なメニューを用意してくれていた。

それは、音楽堂を所管されているハケ岳高原ロッジ支配人の油井雅明氏による解説に加え、実際にプロの演奏家による生の音楽を聴いてみようというものであった。しかも地元産の唐松で製造されたチェンバロの音色を楽しもうというのではないか。一台の楽器から奏でられた音源は六角形の建築全体へと伝わり、その柔らかさの中に芯があるような特徴的な音色に多くの聴衆は魅了されていた。そこには演奏者の背後に見える自然の姿、木の温もりや香り、適度に入ってくる光や風の音、座り心地の良い椅子や建築と一体化した照明等、それら全てが建築の魅力の後押ししているに違いない。自然豊かなハケ岳だからこそ、ホールからは外の景色が眺められ、天窗からは

光や音を感じて欲しいと願う、関係者の想いが詰まった素晴らしい建築であった。

ツアーの最後は、2017年に竣工した北川原温氏設計による小淵沢駅舎。アースカラーと赤松を用いた建築は遠くに見える山並みに呼応しつつ、その存在感を示していた。駅舎の屋上からの遠望は壮大で、一日の旅の疲れを吹き飛ばしてくれるかのような爽快感を味わったひと時だった。

建築には、それぞれ目的がある。美術館は美術品を鑑賞しながら建築空間を体感する。カフェは提供された拘りの食事が美味しく感じられるための仕掛けを堪能する。そして音楽堂は演者と観客が心地良い音で包まれ、建築を含めた全てが一体になるよう心を砕く。建築家は外へ出て、五感で味わうことに意味があり、それを学ぶことが基本である。今回のウォッチングは、まさにその場で感じることの大切さを主題に据えた一日であった。

村松 篤 (JIA静岡)

村松篤設計事務所



エスコンボールパーク

弊社では毎年、国内の建築を視察する研修旅行を開催している。残念ながらコロナ禍でここ3年は中止していたが、今年5月久しぶりに復活開催した。

いつも視察先を決めるのに悩むところだが、初参加となるコロナ禍入社の社員に行き先を決めてもらい北海道に決定した。今年、北海道でエポックな建築といえば、やはり北広島市の『エスコンボールパーク』だろうと、建築視察のメインをボールパークでの野球観戦にした。

早朝セントレアを立ち、新千歳から北広島へ移動。昼過ぎにはボールパークに到着した。1年程前に車窓から建設中のボールパークを眺める機会があったが、1年でこれほど景色が変わるものかと工事関係者のご尽力に感心した。



ランドスケープデザイン、エントランス空間の広がり、臨場感あふれる客席は、これまで経験したことのないスタジアムとの一体感があり魅力的だ。新庄監督デザインの襟付きユニフォームの良さは私には理解出来なかったが、ゲームの方は見事ファイターズが勝利した。

特定のチームを応援している訳ではないが、息子2人が野球好きで、年に数回一緒に野球観戦に出掛ける。これを機に評

判の良い広島や仙台の球場にも出掛けてみたいと思う。

さて現在、私の地元にもスタジアムの建設計画がある、小規模で良いので是非ボールパークの様な質の高いスタジアムを実現して欲しい、楽しみだ。



弓場 千也 (JIA静岡)
アーキプランナー級建築士事務所

夏、郡上鮎と長良川に戯れる

香魚と呼ばれ、西瓜のような清涼感のある香りを放つ、流麗な魚体の天然鮎。古くは神功皇后の時代、アユ占いの伝承から漢字のもとになり。また、最古の歌集「万葉集」で最も多く詠まれている魚で、古来より日本人に親しまれてきたはずですが、昨今の商環境事情で天然鮎が流

通し難く、土用の丑を迎えて現代の方々には「鰻」のほうが好まれるようです。

1年で一生を終える年魚で、稚鮎・若鮎・成魚・落鮎と四季の変化にあわせて、その地域の食方で、身近に深く関わってきた魚だと思います。

私自身「鮎」との関りは、岐阜郡上の長

良川へ通い始めた40年近く前、釣好きが昂じて鮎掛けをはじめてからです。しかしながら最近の、局地的な大雨と自然災害が頻発しているニュースを見るたびに考えさせられるのが、地球温暖化・森林破壊などの環境問題。

そして既に悲鳴をあげている鮎と川が訴えかけてくるのが、その影響で鮎の生態が大きく変わり、盛夏に縄張りを持ち辛くなったり、成長サイクルが1か月ほど延びて晩秋の落鮎時期が遅延してみたり。また、収穫期を迎えても放置されたままの針葉樹人工林の拡大など。

その昔、義父からよく聞かされた「最近の川は、だちかん。昔の大川は、ちっとばかりの雨ではこんなに濁らんかった。」の言葉を思い出しながら。



東谷 泰成 (JIA愛知)
東畑建築事務所



2024年度 東海支部役員選挙の告示

2023年10月1日

(公社)日本建築家協会東海支部選挙管理委員会
委員長:鈴木 慶智
委員:清 峰芳、見寺 昭彦、長尾 英樹、松本 正博

「東海支部役員等選出規則」に基づき、2024年度東海支部役員選挙について次のように告示します。

記

◎2024年度東海支部役員選挙で選出する役員の数

- ・幹事 静岡地域会 2名
愛知地域会 5名
岐阜地域会 2名
三重地域会 2名
- ・監査 2名

※なお幹事の選出は各地域会単位とし、選出方法は各地域会の定めによります。(東海支部役員等選出規則第3条2)

◎選挙日程

- | | |
|--------------|--|
| 第1回選挙管理委員会 | 2023年 9月 1日(金) 17:45 (WEB併用) |
| ◇第1回告示 | 2023年10月 1日(日) (ARCHITECT2023年10月号及びHPに掲載) |
| 立候補・届出締切り | 2023年11月17日(金) (10:00事務局受付) |
| 第2回選挙管理委員会 | 2023年11月17日(金) 15:00(WEB併用) |
| ◇第2回告示 | 2023年11月24日(金) (投票用紙とともに郵送) |
| 投票期日 | 2023年12月14日(木) (投票用紙事務局着分有効) |
| 第3回選挙管理委員会 | 2023年12月15日(金) 15:00(WEB併用) |
| 選挙結果報告 支部長あて | 2023年12月15日(金) |
| 選挙結果の発表 | (ARCHITECT2024年2月号に掲載) |

以上

(注)立候補者数が定数と同数の場合は第2回告示、投票を行わず日程を一部繰り上げる。

2024年度 東海支部愛知地域会 会長・副会長及び監査選挙の告示

2023年10月1日

(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会選挙管理委員会
委員長:生津 康広
委員:金山 美登利、寺田 智之、中川 竜夫、花井 秀哲

「愛知地域会役員等選出細則」に基づき、2024年度愛知地域会 会長・副会長及び監査の選挙について次のように告示します。

記

◎2024年度東海支部愛知地域会役員選挙で選出する役員の数

- ・地域会長・副地域会長候補 5名
- ・地域会監査 2名

※なお選出された地域会長・副地域会長候補は、東海支部幹事を兼任します。(愛知地域会規則第7条1)

◎選挙日程

- | | |
|---------------|--|
| 第1回選挙管理委員会 | 2023年 9月 1日(金) 15:00 (WEB併用) |
| ◇第1回告示 | 2023年10月 1日(日) (ARCHITECT2023年10月号及びHPに掲載) |
| 立候補・届出締切り | 2023年11月13日(月) (10:00事務局受付) |
| 第2回選挙管理委員会 | 2023年11月15日(水) 14:00(WEB併用) |
| ◇第2回告示 | 2023年11月17日(金) (投票用紙とともに郵送) |
| 投票期日 | 2023年12月11日(月) (投票用紙事務局着分有効) |
| 第3回選挙管理委員会 | 2023年12月13日(水) 14:00 |
| 選挙結果報告 地域会長あて | 2023年12月13日(水) |
| 選挙結果の発表 | (ARCHITECT2024年2月号に掲載) |

以上

(注)立候補者数が定数と同数の場合は第2回告示、投票を行わず日程を一部繰り上げる。



【概要】

登録番号: 23-0034
 住所: 犬山市白山平2
 建設年: 江戸後期
 構造規模: 木造つし2階 棧瓦葺
 建築面積: 182㎡



天保13年(1842年)城下町の東側の余坂村の瓦工場で出火したことで、おおよそ弘化3年(1846年)瓦の製造権利を買取り、今の地に移転して犬山城の御用瓦土として営んでいたが、城主念願であった、犬山焼の復活にむけて慶応二年(1866年)に初代尾関作十郎信業が犬山の伝統陶磁器の犬山焼を経営に協力し、明治6年(1873年)に引受ける形で代々「尾関作十郎」を襲名して150年間この地で作陶と絵

付を行ない、伝統工芸を護っている。
 元瓦師の住まいとして建てられた主屋は、南に面して平入、東側に幅2間奥行8間の土間が続き、南側は半畳の縁に面して東より6畳・8畳の次の間・8畳の床棚付き座敷、座敷北に4畳仏間・3畳納戸、その北に6畳間、土間に面して8畳が2間続く。仏間の北に北庭に面して半畳の縁があり、土蔵へと繋がっている。
 昭和中期に東側にコンクリートの住居が増

築され、昭和63年にその手前に店舗+作業室を増築しているが、主屋の保存状態も良く当時の姿をよく残している。
 今年の夏、土間を改装して犬山焼の茶碗などの作品で、おもてなしが出来る場所を整えた。
 川口 亜稀子 (JIA 愛知)
 Liv設計工房



編集後記

●連載3回目になる川島範久さんの『環境建築』その先へ。今回は住まい手に行動変容を促す“Nudge

(ナッジ)”の解説とその実践例のご紹介。実は政治や商品の販促などでも、人々にそれと気付かせぬ間に行動変容を促すナッジは広く応用されている。建築分野でも「自動化」や「見える化」によるナッジが実装されているが、川島さんの事例はデジタル技術を軽く採り入れることで、楽しみながら行動変容が促されているところがユニークだ。人に環境行動を促すきっかけは「五感への刺激から」、静岡発の建築ウォッチングはそのことを実感させられる良いツアーの報告であった。東海支部をあげて用意したJIA常滑大会エクスカージョンは、川島

範久さん解説付きのツアーなど、そんな実感を味わって頂くツアーが満載です。ぜひお申し込みください!
 (恒川 和久)

●11月の大会のエクスカージョン「環るツアー静岡」にあるコルゲートパイプの家。この5月に機会があって見学をさせて頂いた。見学される皆さんにネタバレするつもりはないが、故川合健二氏が、限られた予算の中で、生活するために最小限必要な面積、家族のために必要な空間、限られたエネルギーの中で自給自足を支える家、それを実現するための材料と工法…。設備設計者である氏が、一から「家」を考えてセルフビルドで作り、最後まで住み続けた「家」である。
 観測史上、最も暑い夏、地球沸騰化と言われる地球に住まい、スイッチを入れれば快適な環境が手に入る私たちには多くの学びがあ

る。今は、豊橋市在住の建築家・富田正行さんの手で、当時の価値を残す丁寧な補修が行われている。是非、多くの皆さんに足を運びいただければと思う。
 (若林 亮)

ARCHITECT
 第421号
 発行日 2023.10.1 (毎月1回発行)
 発行責任者 大瀧正也
 編集責任者 恒川和久
 編集 東海支部会報委員会
 愛知地域会ブリテン委員会
 株式会社イツミ内
 ARCHITECT 編集部
 岡崎市明大寺町荒井10番地
 TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792
 発行所 (公社)日本建築家協会東海支部
 名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル
 TEL (052)263-4636 FAX 251-8495
 E-Mail : shibu@jia-tokai.org
 http : //www.jia-tokai.org/

JIA建築家大会2023、11月11日(土)は、東海各地を「環る」8つのツアーを開催。

大会3日目の11月11日には、東海支部各地域会等が企画したエクスカージョンとして8つのツアーが行われます。東海支部の皆さまも、全国からの参加者とともに、地元の魅力を再発見するツアーにぜひご参加下さい。

No.01 環るツアー愛知 A

常滑駅集合 (9:20 発) → 豊田市美術館 (設計: 谷口吉生 1995) → 愛知県緑化センター (設計: 瀧光夫 1975) → あいち海上の森センター (設計: 第一工房 2006) → 愛知県立芸術大学 (設計: 吉村順三 1966) → 名古屋駅 (17:40 着予定)

参加費 ¥10,000 (豊田市美術館 企画展F.L. ライト展入場料含む、昼食代含む)



豊田市美術館

No.02 環るツアー愛知 B1

常滑駅集合 (9:30 発) → 稲沢市庁舎 (設計: ゲンブラン 1970) → 旧羽島市役所 (設計: 坂倉準三 1958) → 千代菊酒造 (坂倉準三生家) → 名古屋大学豊田講堂 (設計: 楨文彦 1960) → 小堀哲夫ミニレクチャー ((仮) 東海国立大学機構プラットフォーム設計者) → 南山大学・神言神学院 (設計: A.レーモンド 1964) → 名古屋駅 (17:30 着予定)

参加費 ¥10,000 (昼弁当つき)



名古屋大学豊田講堂

No.03 環るツアー愛知 B2

常滑駅集合 (9:00 発) → 浅沼組名古屋支店 (設計: 川島範久 (解説付き) 2022) → トヨタ産業技術記念館 (設計: 竹中工務店 2004) → 名古屋大学豊田講堂 (以降、環るツアー愛知 B1 に合流) → 名古屋駅 (17:30 着予定)

参加費 ¥10,000 (トヨタ産業技術記念館入場料含む、昼食代含む)



浅沼組名古屋支店

No.04 環るツアー岐阜

常滑駅集合 (8:50 発) → セラミックパークMINO (設計: 磯崎新 2002) → 多治見市モザイクタイルミュージアム (設計: 藤森照信 2016) → 幸兵衛窯……オリベストリート、カトリック多治見教会神言修道院 (1930) → 虎渓山永保寺 (国宝・観音堂、開山堂) → 名古屋駅 (17:35 着予定)

参加費 ¥10,000 (昼食代含まず)



多治見市モザイクタイルミュージアム

No.05 環るツアー三重

常滑駅集合 (9:10 発) → 六華苑 (重要文化財 設計: J.コンドル 1913) → 三重大学レーモンドホール (A.レーモンド 1951) → 高田本山専修寺 (国宝・御影堂、如来堂、庭園「雲幽園」) → 津駅 (16:00 着予定) → 名古屋駅 (17:30 着予定)

参加費 ¥11,000 (昼食代含む)



六華苑

No.06 環るツアー静岡

常滑駅集合 (8:40 発) → コルゲートハウス (川合健二郎 1966) → 鴨江アートセンター (旧浜松警察署庁舎 1928) → 木下恵介記念館 (旧浜松銀行協会 1930) → 資生堂アートハウス (設計: 谷口吉生 1978) → 掛川城 (御殿: 重要文化財) → 掛川駅 (16:00 着予定) → 名古屋駅 (18:10 着予定)

参加費 ¥12,000 (昼うなぎ弁当つき)



資生堂アートハウス

No.07 環るツアー知多半田

常滑駅集合 (9:45 発) → 國盛酒の文化館 → 中埜半六郎・庭園 → 半田運河沿い・黒壁散策 → 半田赤レンガ建物 (旧カプトビール工場 設計: 妻木頼黄 1898) → 常滑駅 (15:00 着予定) → 中部国際空港 (15:15 着予定)

参加費 ¥8,000 (中埜半六郎入場料含む、昼食代含まず)



半田赤レンガ建物

No.08 文化財修復塾ツアー

常滑駅集合 (8:30 発) → JR千種駅 (9:30 発) → 豊田市足助伝統的建造物群保存地区「旧料理旅館寿々家」 → 昼食各自 → 「旧紙屋鈴木家住宅」 (国重要文化財) → 町並み散策 → 名古屋駅 (17:10 着予定)

参加費 ¥8,000 (昼食代含まず)



旧紙屋鈴木家住宅

各ツアーともCPD単位認定の申請中です
エクスカージョン参加申し込みはこちらから

